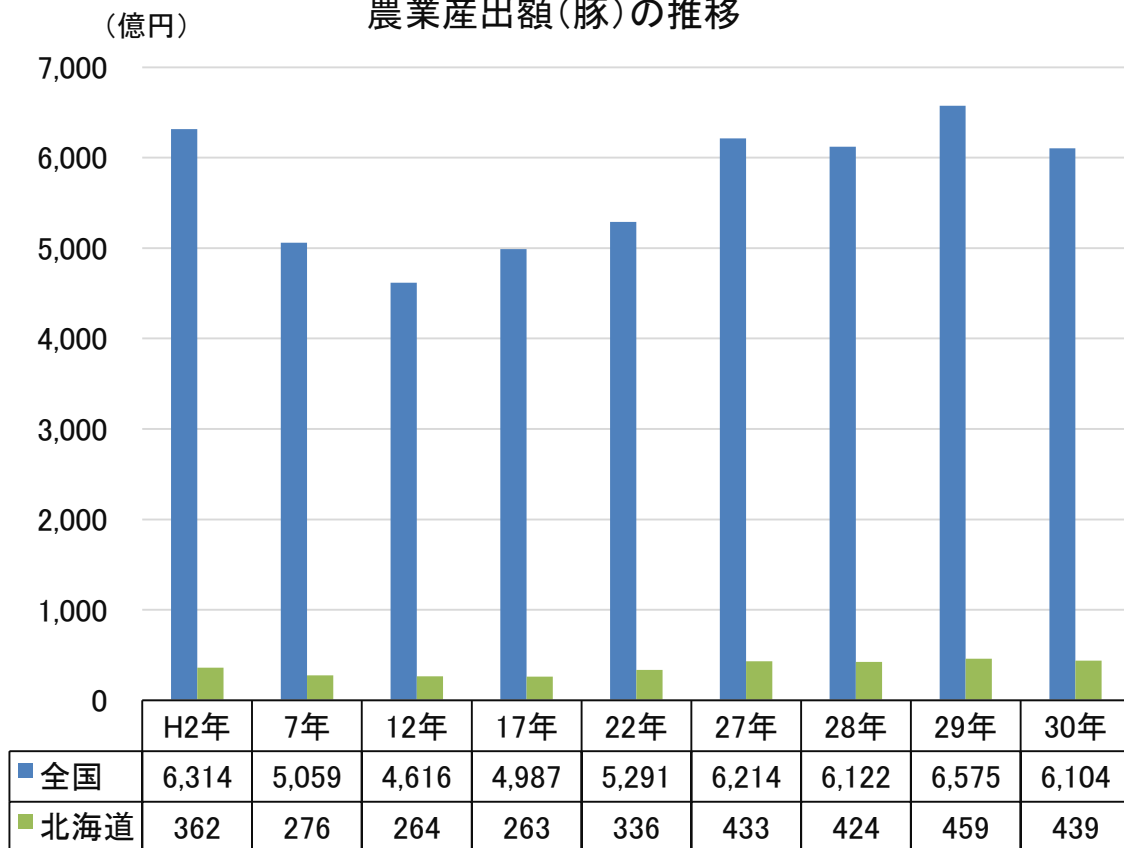


IV 中小家畜・軽種馬

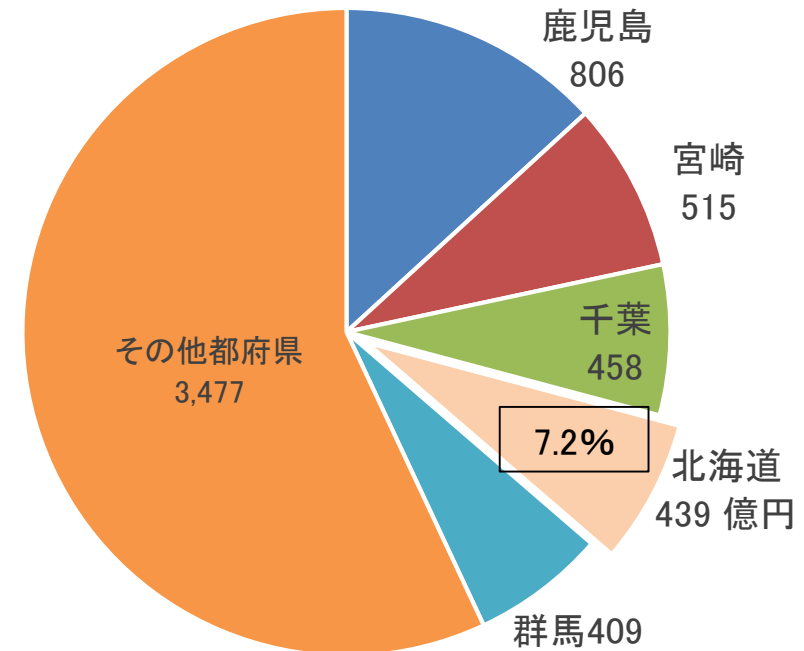
1 北海道における豚の位置付け

- 平成30年の北海道における畜産の産出額は7,347億円。
- うち豚の産出額は439億円で、6%を占めている。
- 全国に占める北海道の割合は7.2%で、全国4位の位置付け。

農業産出額(豚)の推移



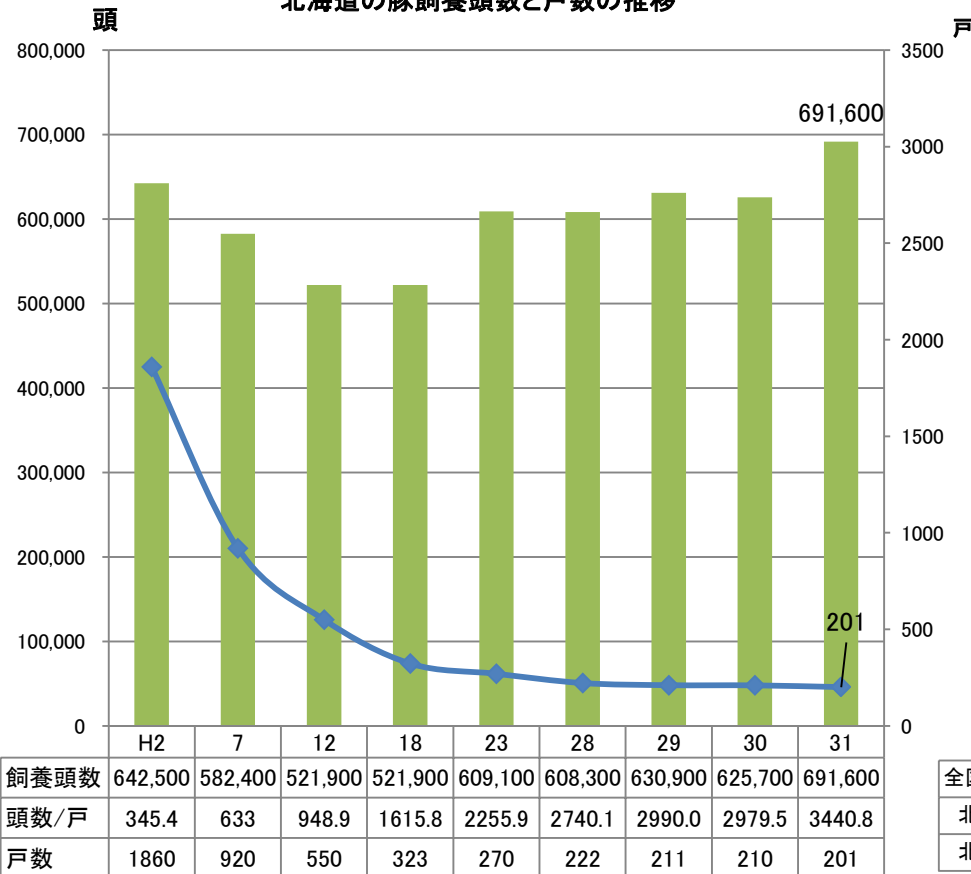
全国の農業産出額(豚)の内訳(平成30年)



2 豚の飼養動向

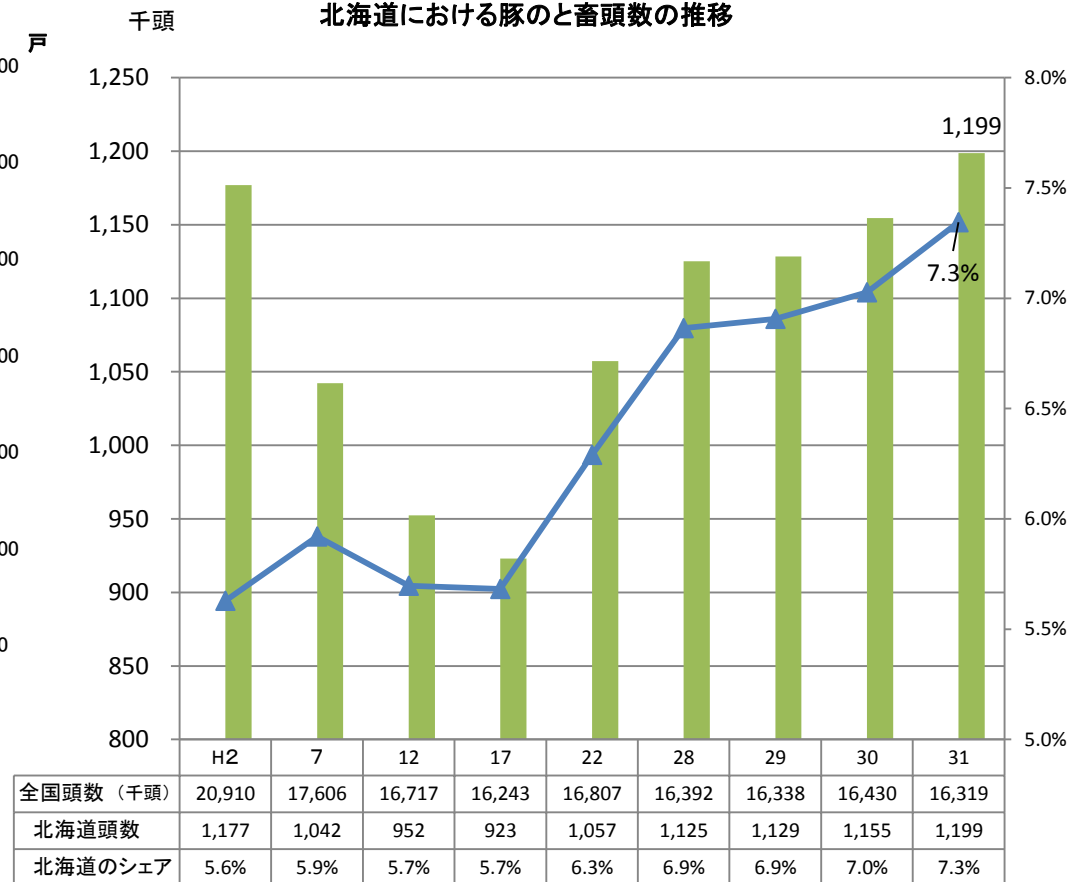
- 豚の飼養戸数は、平成31年は201戸（H2年対比10.8%）。
- 飼養頭数は、昭和63年の672,100頭をピークに中小規模の生産者の経営中止から減少傾向にあったが、近年大規模化が進展し、平成31年は691,600頭（H2年対比107.6%）。
- 北海道の豚のと畜頭数は、昭和62年の1,255千頭をピークに減少傾向にあったが、近年は100万頭を超え増加傾向で推移し、全国のと畜頭数に占める割合は、平成31年は7.3%。

北海道の豚飼養頭数と戸数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」(各年2月1日)

北海道における豚のと畜頭数の推移

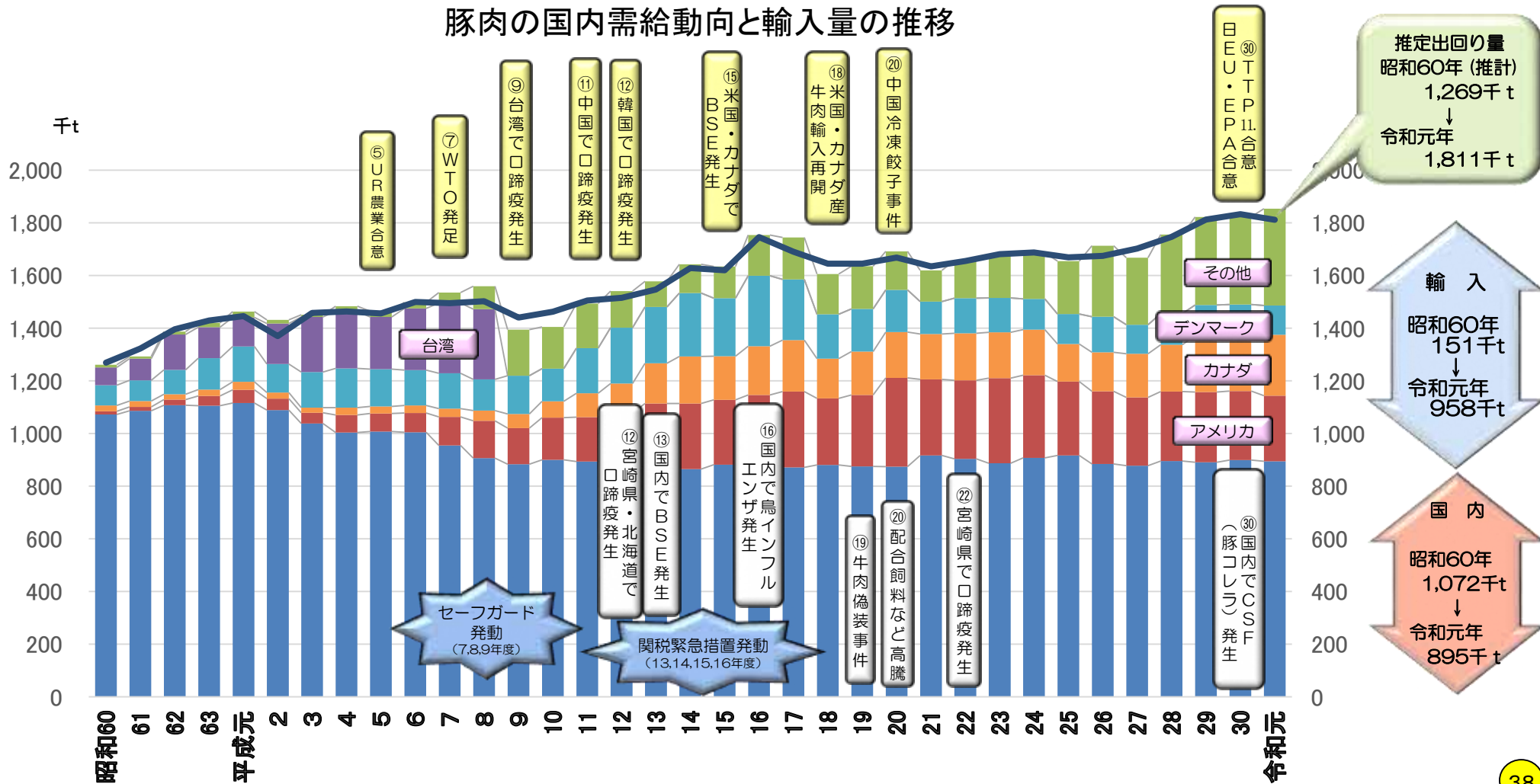


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

3 豚肉の需給の推移

- 豚肉の消費量(推定出回り量)は、平成13年の国内でのBSE発生や16年の高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う牛肉・鶏肉からの代替需要により、平成17年まで増加傾向で推移し、その後概ね160万トン台で推移したが、29年以降は、需要の高まりを背景に輸入量が増加し、180万トン台で推移している。
- 豚肉輸入量(部分肉ベース)は、国別にアメリカ、カナダの順に多く、国内需要の約半数を占める。

豚肉の国内需給動向と輸入量の推移



4 北海道における鶏の位置付け

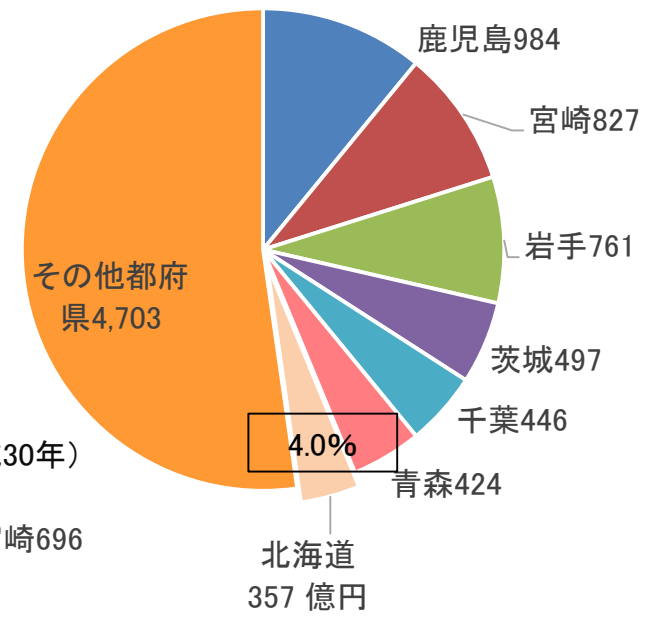
- 平成30年の北海道における畜産の産出額は7,347億円で、そのうち鶏の産出額は357億円。
- 全国に占める北海道の割合は4.0%で、全国7位の位置付け。
- 鶏卵の産出額は188億円、ブロイラーの産出額は167億円。

■ 農業産出額(鶏)の推移

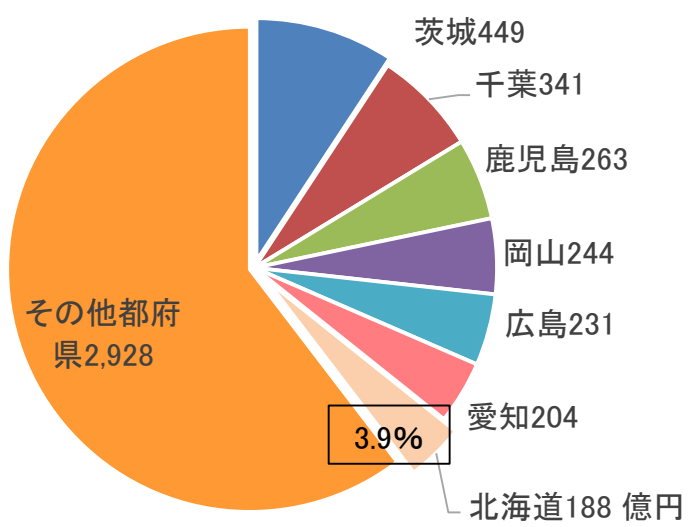
(単位: 億円)

区分	H2	7	12	17	22	27	28	29	30
全国	8,622	7,011	7,023	6,889	7,352	9,049	8,754	9,421	8,999
北海道	313	256	300	315	313	399	377	390	357

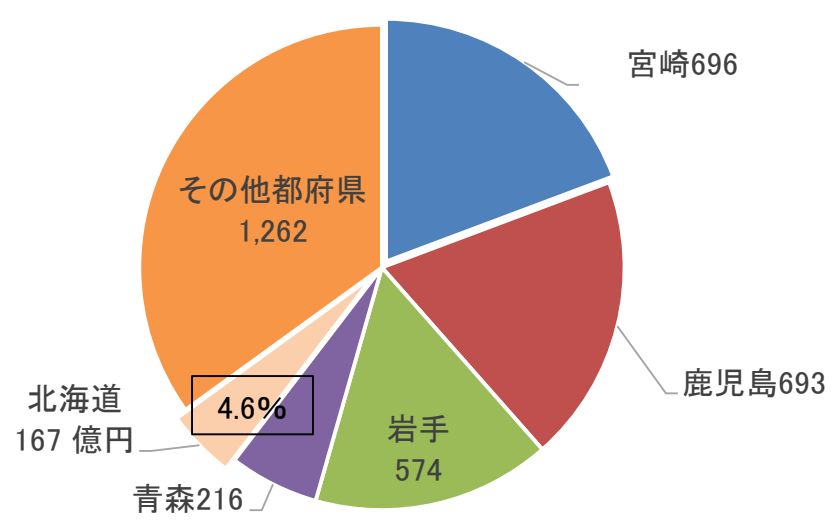
全国の農業産出額(鶏)の内訳(平成30年)



全国の農業産出額(鶏卵)の内訳(平成30年)



全国の農業産出額(ブロイラー)の内訳(平成30年)



資料: 農林水産省「生産農業所得統計」

5 肉用若鶏(ブロイラー)の飼養動向

- 肉用若鶏(ブロイラー)の飼養戸数は、平成31年は10戸、飼養羽数は4,920千羽。
- 1戸当たり飼養羽数は、492千羽と全国平均の61.4千羽を大きく上回る大規模飼養。
- ブロイラーの主産県は、鹿児島県が第1位で、宮崎県、岩手県、青森県に次いで北海道は第5位。
- 国内の生産量は、国産志向等を反映して増加傾向で推移し、平成30年は最高水準。北海道の出荷重量も増加傾向で推移し、全国に占める割合は5.5%。

■ 肉用若鶏の飼養戸数と飼養羽数の推移

区分		H12	17	21	26	28	29	30	31年
北海道	飼養戸数	8	7	7	8	8	10	10	10
	羽数(千羽)	3,456	2,421	4,444	4,848	4,639	4,693	4,993	4,920
	羽数/戸	432.0	345.9	634.9	606.1	579.9	469.3	499.3	492.0
全国	飼養戸数	3,082	2,652	2,392	2,380	2,360	2,310	2,260	2,250
	羽数(千羽)	108,410	102,277	107,141	135,747	134,395	134,923	138,776	138,228
	羽数/戸	35.2	38.6	44.8	57.0	56.9	58.4	61.4	61.4

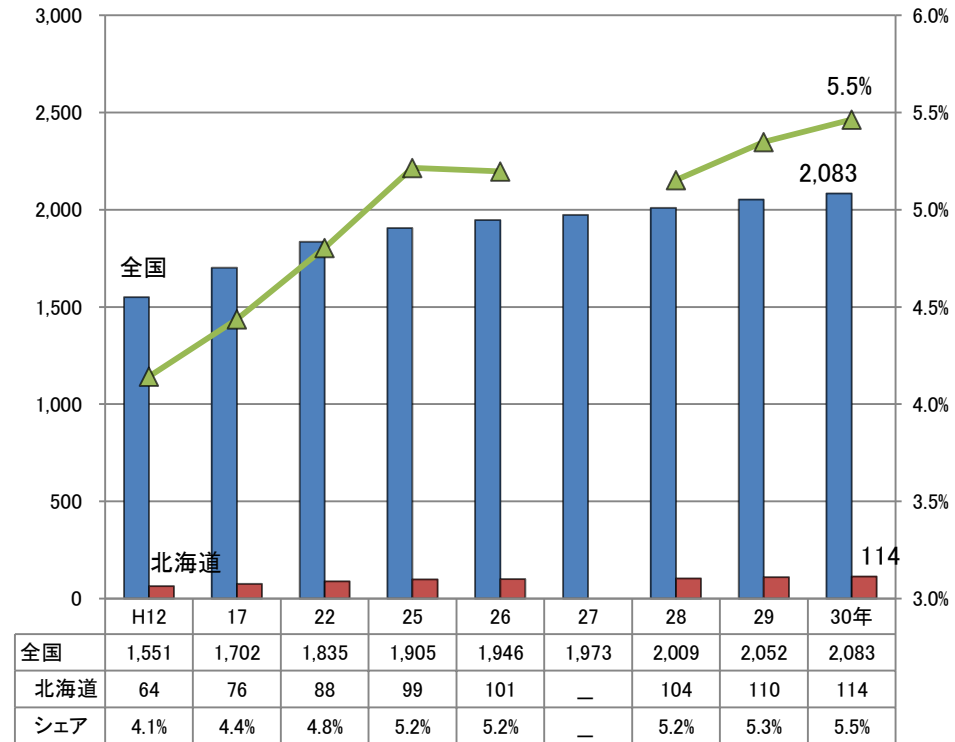
資料:農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)

■ 肉用若鶏の主産県の状況(H31年)

順位	道県名	出荷羽数(千羽)
1	鹿児島県	139,785
2	宮崎県	136,597
3	岩手県	110,797
4	青森県	41,612
5	北海道	37,750
6	徳島県	17,637
7	佐賀県	17,249
8	鳥取県	16,403

資料:農林水産省「畜産統計」

千羽 肉用若鶏の出荷重量の推移

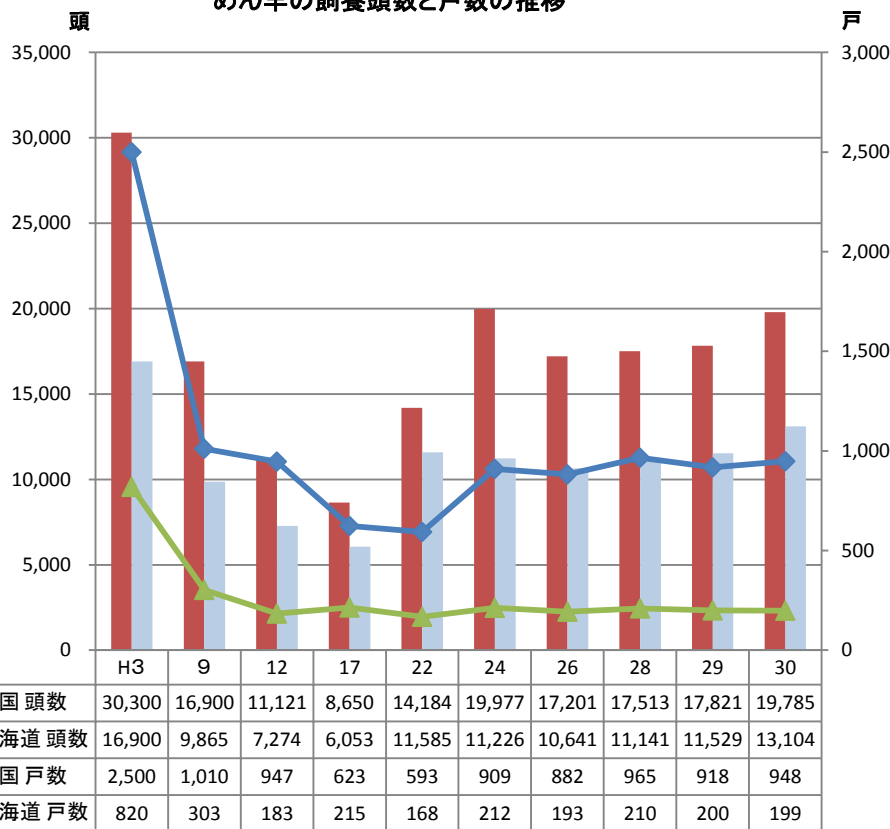


資料:H12~26 農林水産省「畜産物流通統計」、「畜産統計」
 H27 農林水産省「畜産統計」、「畜産物流通統計」うち、都道府県別出荷羽数、出荷重量は非公表
 H28~30 農林水産省「畜産物流通統計」、「畜産統計」
 なお、都道府県別出荷重量は非公表のため、全国出荷羽数と出荷重量からの年次毎1羽当たりの出荷重量を都道府県別出荷羽数に乘じたものにより算出

6 めん羊の飼養動向

- 道内のめん羊の飼養戸数は、平成30年で199戸、飼養頭数は13,104頭で全国に占める頭数割合は、66%。
- めん羊肉生産量は、平成30年度で、全国は153t、北海道は119tと全国の77.8%を占める。
- 道内の主要な振興局別産地は、平成31年で、十勝、上川、空知、釧路、石狩の順。
- 羊肉の消費量のほとんどはオーストラリアやニュージーランドからの輸入が占め、国内での流通量に対する国内生産量は1%未満。

めん羊の飼養頭数と戸数の推移



資料:「日本綿羊研究会誌」、農林水産省「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」、平成12年以降の北海道データは、道畜産振興課調べ

都道府県別の羊肉生産量（枝肉ベース・H30年度）

都道府県	北海道	青森県	岩手県	秋田県	山形県	栃木県	長野県	その他	全国計
生産量 (t)	119.1	1.8	5.0	3.7	6.5	2.1	7.1	7.7	153.0

資料: H21年以降公表されていないため、厚生労働省「食肉検査等情報還元調査」による「と畜頭数」に、H17~21年の過去5か年の1頭あたり枝肉重量の全国平均値(29.23kg)を乗じたものにより推計

振興局別の飼養状況（H31年）

区分	十勝	上川	空知	釧路	石狩	留萌	その他	合計
戸数	37	30	15	18	23	4	73	200
頭数	2,935	2,236	1,816	1,383	1,265	803	1,833	12,271

資料: 道畜産振興課調べ(2月1日現在)

羊肉の国内生産量の割合

区分	H17年次	H22年度	27	28	29	30
国内生産量 (t)	97.9	124.3	121.5	115.1	116.9	119.3
輸入量 (t)	29,599	18,240	17,506	18,236	20,897	24,154
国内消費仕向量 (t)	29,697	18,364	17,628	18,352	21,014	24,273
国内生産量の割合 (%)	0.3%	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%	0.5%

資料: 農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」
数量は部分肉ベースに換算(枝肉の78%)。25年度以降の国内生産量は推計。

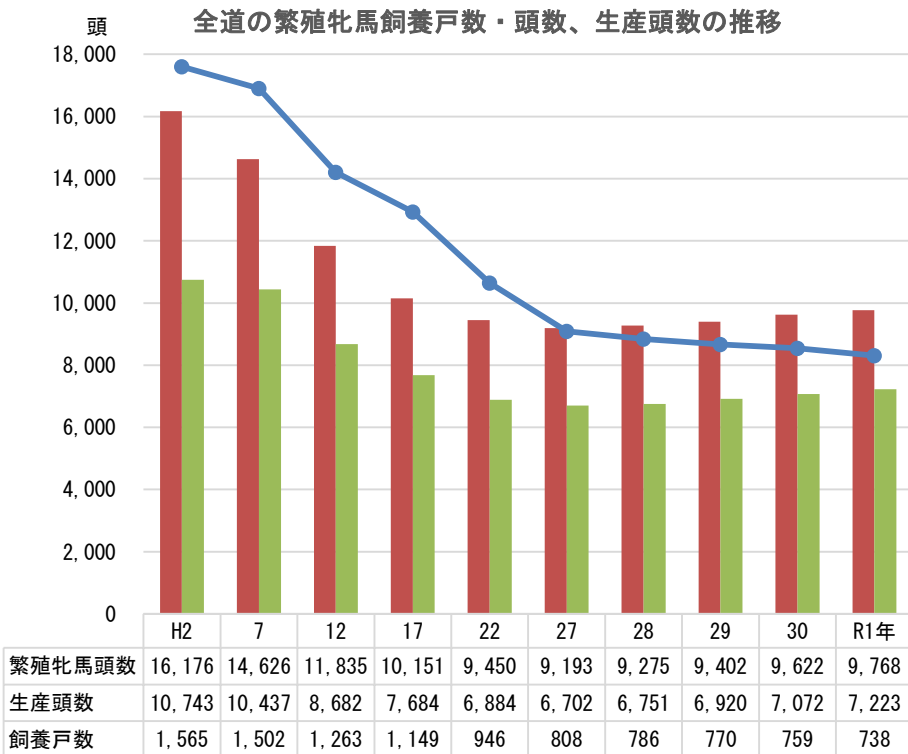
7 軽種馬・その他の馬の状況

【軽種馬】

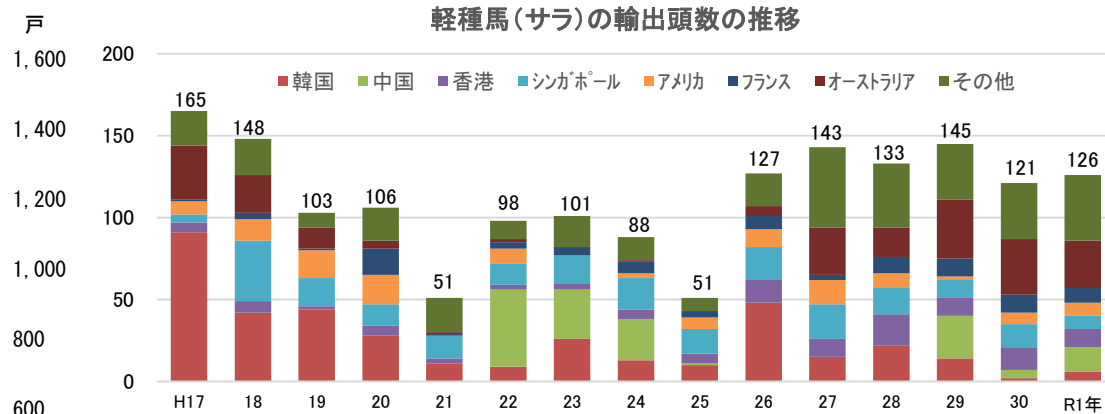
- 本道の軽種馬繁殖牝馬頭数は、令和元年は9,768頭と全国(10,005頭)の97.6%を占める主要産地。そのほとんどが日高及び胆振振興局管内で、地域経済を支える基幹産業。
- 飼養戸数は、738戸で前年に比べ21戸の減少。生産頭数は、平成24年以降増加傾向で推移し7,223頭。
- 軽種馬(サラ)の輸出頭数は、前年から5頭増の126頭。

【その他の馬】

- 農用馬は、昭和30年代までは農耕用・運搬用として大きな役割を果たしたが、近年は生産頭数が大きく減少。十勝及び釧路振興局管内での生産が全道の約6割を占め、飼養頭数は3,024頭。
- 北海道和種馬(どさんこ)の飼養頭数は、954頭。



資料: 日本軽種馬協会「軽種馬統計」(各年12月31日)



その他の馬の飼養状況の推移

区分		H22	27	28	29	30	R1年
農用馬	飼養戸数	668	514	471	459	432	402
	頭数	4,336	3,293	3,025	3,107	2,970	3,024
北海道和種馬(どさんこ)	飼養戸数	195	204	201	188	172	162
	頭数	1,198	1,205	1,106	1,059	1,029	954
ポニー馬	飼養戸数	822	742	703	692	668	669
	頭数	2,961	2,647	2,553	2,415	2,295	2,487
乗用馬	飼養戸数	102	94	91	87	90	88
	頭数	1,339	1,149	1,097	1,137	1,233	1,217

資料: 北海道農政部調べ「肉畜調査」(各年2月1日)